

公益社団法人日本包装技術協会 2022 年度活動方針

昨年も、2019年より始まった新型コロナウイルス感染拡大により、国民生活は大きな制限を余儀なくされたが、経済的には緩やかながらも好循環が見られた年でもあった。しかし、コロナ禍により半導体をはじめ各種原材料不足による各種製品の生産遅延や人手不足によるサービスや物流に深刻な影響を及ぼし不安定な世界情勢、環境問題、自然災害などがさらに拍車をかけ、世界的に需給バランスが崩れた状態が続いている。

本年、新たな治療薬や治療法の開発など医療・科学の努力・進歩により、新型コロナウイルス感染の終息が期待されるが、2年間にもわたるコロナ禍の影響による世界情勢、社会環境、人々の心の在り方などの変容は、今後の不透明感をますます増加し、将来が予測しにくいものとなっている。

このような情勢の中でも、包装は、今までに構築してきた技術力や知見を活かして、更なる高度化や多様化に適切に対応していくことが求められている一方、持続可能な社会形成の実現に向けて、包装の必要性とその価値はさらに高まっていくことが予測される。

特に内容物の品質保持機能の強化・保存期間の延長、輸送物流効率の向上、利便性の向上、地球環境負荷の低減、そして、人々に作り手の想いと Fun をもたらし包装が求められている。

当会はこうした状況を鑑み、包装の重要性を広く社会に啓蒙し、また当会の存在価値も高め、会員各位のより一層の協力を得て、基本事業である包装適正化の推進や次世代を担う包装人材育成等の事業をさらに充実させ、より高度で豊かな包装への取り組みを支援し、活力ある包装産業の実現と、社会へより貢献できる団体となることを目指す。特に、本年は2022東京国際包装展(TOKYO PACK 2022)の開催年であり、世界を代表する国際包装展として、その内容の充実を図り、世界に向けて包装の役割と重要性を発信する。

以上のような内容を踏まえ、当会は次の事項を重点とした諸活動を展開する。

1. 会員サービス・協会事業の質的向上と体質強化

公益法人としての協会の一層の成長を切り拓いていくため、現在行っている事業や会員サービスの質的向上と内容の拡充を図ると共に、全国にある各支部とも連携し、会員相互の研鑽と情報交流の更なる進化に努め、包装産業の活性化と技術力の向上に貢献し、会員の拡充にもつなげる。また、当会の経営状況も見直し、財政基盤を強固なものとなることを目指す。

2. 包装人材育成のさらなる進化への取組み

包装技術は、ますます多様化・高度化し、課題解決に向けた期待・要求も大きなものとなっており、このような変化や課題やアフターコロナ時代に対応、そして挑戦できる包装人材の育成が急務となっている。当会事業の柱の一つである包装管理士講座、包装専士講座をはじめとする包装教育事業の一層の質的向上と内容の拡充に努め、新たな包装の開発やイノベーションに寄与し、課題解決能力を有する人材の育成を図る。

3. SDGs への対応、持続可能な社会実現への取組み推進

国連が世界の共通目標として「持続可能な開発目標 (SDGs)」を採択し、日本でも 2050 年の CO₂ ゼロの達成を目標にすでにさまざまな取組みが行われている。特に産業、食糧問題、環境関連の課題における包装の重要性と果たすべき役割は大きく、さらなる技術向上とイノベーションが求められている。包装が取組むべき課題を十分に認識・周知し、包装分野だけでなく他業種との横断的な協業・開発を促進できるよう情報・課題の共有を図り、包装業界のプラットフォームとしての活動を推進する。

4. 包装の更なるグローバル展開を推進

日本の包装技術の優位性を維持しつつ、更なるグローバルに成長していくためには、各地域の文化やニーズを把握しそれに適応した包装の開発や生産に寄与していくことが求められており、当会では、世界の最新情報を集約し、日本の包装技術の紹介や活用などの活動を積極的に推進する。また、APF や WPO のメンバーとして各国包装協会と連携し、各国の包装産業とも一層の協力を深め、ISO/TC122 の国際幹事国として、国際的な標準化やルール作りに向けた取組みを一層強化し、日本の包装技術や標準化への意見を世界に反映する活動を推進する。

5. 2022 東京国際包装展 (TOKYO PACK 2022) の成功と活力ある包装産業の創出

本年 10 月に開催する 2022 東京国際包装展 (TOKYO PACK 2022) は、今回が 29 回目の開催となる。アフターコロナ時代を見据え、未来を先取りするような高度な日本の包装産業を世界に発信する国際包装展としてふさわしい内容と運営を図ると共に、包装産業の活力ある発展と社会生活の向上、さらに国際相互の理解を促進できるような機会の拡充に努める。

2022年度(令和4年度) 事業計画

第1. 事業

1. 研修、育成事業、交流事業、普及啓発事業（公益目的事業1）

<研修、育成事業>

本年度は昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染の終息時期が見えないため、研修事業のカリキュラム内容・開催時期等により、開催方式を Web オンラインによるものと、実地集合対面開催するもの、あるいはハイブリッドで開催するなど、参加者の安全・安心を第一に考えた、研修活動を展開してゆく。

各種包装人材育成事業の中の包装管理士講座は本年で57回目の開講を迎え、現在の社会状況やニーズから座学はオンラインで実施し、合宿は対面で開講する予定であるが、感染状況等によりオンライン対応も考慮する。

なお出願受付は地域別（東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）にて行う。

包装分野においてトップレベルの内容で実施されている包装専士講座は、新型コロナウイルスの感染防止対策を実施の上、運営し、輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの4コースで合計40名までの少人数募集枠で実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術を提供する人材育成コースと、内外の最新情報の提供を目的として実施されているセミナーは、昨年引き続きオンラインと対面のスタイルを催事内容に合わせて選択し開催する。それぞれ時代に適合した内容が多いが、昨今の環境問題を背景とした持続可能な社会構築を目指した包装及び関連技術の開発動向や、生活者にとっての安全・安心そして利便性などを目指し開発された包装商品の事例等を主なテーマに本年も実施する。又、これらの事業は支部別に地域のニーズに合わせて開催されてきたが、それぞれ対面で開催してきた会員向けの無料セミナーは催事名を「JPI WEB フォーラム」に統一し、より多くの会員により多くの情報を提供するためにオンラインで実施する。

なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ人々は参加が可能である。

1) 第57期包装管理士講座 本部・支部 6月開講～9月終講（うち13日間）

開催地：集合・合宿研修 ロワジュールホテル豊橋（コース別に対面で実施）

一般講義 受講者の職場や自宅（オンラインで実施）

定員：430名

地域別募集枠	東京(含む仙台)	215名	大阪	100名
	名古屋	70名	福岡	30名
	札幌	15名		

合格証書授与式(地域別開催) 10月～11月

東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌

2) 2022年度包装専士講座 東京本部

6月開講～3月終講 共通教科4日、専門教科10日

開催地：合 宿 レクトーレ葉山湘南国際村

コース別座学 東京 (JPI 会議室・ビジョンセンター浜松町)

定 員：40名 (4コース合計)

- (1) 第35期輸送包装コース
- (2) 第36期食品包装コース
- (3) 第35期包装材料コース
- (4) 第34期医薬品包装コース

3) 研究大会

- (1) 第60回全日本包装技術研究大会 札幌大会 本部・支部

11月17日(木)～18日(金)

開催地：札幌市 (ニューオータニイン札幌)

定 員：150名

4) 講習会 (無料)

- (1) JPI WEB フォーラム 本部・支部 4月～3月 年30回程度予定

オンライン開催 定 員：300名

配信予定：東京本部 15本 関西支部 8本 中部支部 8本

西日本支部 2本 東北支部 2本

- (2) その他講習会

東京本部

新潟県包装研究会	10月	新潟市
静岡県包装研究会	11月	静岡市
包装情報ステーション	年2回	オンライン開催

中部支部

包装技術講習会	11月	ウインクあいち
---------	-----	---------

西日本支部

輸送包装研究会	8月・10月	西鉄イン福岡	定員30名
生活者包装研究会	8月・10月	西鉄イン福岡	定員30名

北海道支部

包装懇話会	11月
包装基礎セミナー	2月

東北支部

包装研究講演会 2月

5) 研修コース (有料)

東京本部

(1) 第27回包装新人研修コース	4月	JPI 会議室	定員30名
(2) 第54回包装基礎コース	5月	JPI 会議室	定員30名
(3) 第38回フレキシブルパッケージコース	11月	JPI 会議室	定員30名
(4) 第16回緩衝包装設計コース	1月	JPI 会議室	定員30名
(5) 第46回段ボール包装設計コース	2月	JPI 会議室	定員30名
(6) 第13回食品包装コース	11月～3月	JPI 会議室	定員30名

関西支部

(1) 第29回包装基礎コース	5月11日～13日	ハートンホテル北梅田
(2) 第16回緩衝包装設計実践コース	10月21日	大阪産業技術研究所
(3) 第49回段ボール包装設計実習コース	1月26日～27日	ハートンホテル北梅田 他

中部支部

(1) 2022年度包装設計の基礎講座	5月12日～13日	愛知県技術開発交流センター
---------------------	-----------	---------------

6) セミナー、シンポジウム (有料)

東京本部

(1) 化粧品包装セミナー	7月・11月	東京都内会議室又はWeb
(2) パッケージイノベーションセミナー	10月	東京都内会議室又はWeb
(3) 包装材料セミナー	1月	東京都内会議室又はWeb
(4) 医薬品包装セミナー	3月	東京都内会議室又はWeb
(5) 包装近未来シンポジウム	3月	東京都内会議室又はWeb

7) 講演会・発表会

東京本部

(1) 2022パッケージングフォーラム	8月
----------------------	----

中部支部

(1) 2022日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会	12月	ウインクあいち
(2) 第62回包装技術研究大会中部大会	2月	ウインクあいち

西日本支部

(1) 包装事例研究発表会(包装管理士合格者)	10月28日	西鉄イン福岡
-------------------------	--------	--------

- (2) 包装事例研究発表会(2022 日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会)
11月 オンライン開催

北海道支部

- (1) 第57期包装管理士合格者レポート発表 11月
(2) 新春研究会 1月

東北支部

- (1) 東北支部包装技術研究発表大会 11月
(2) 新春講演会 1月 江陽グランドホテル

8) 包装懇話会 (年間登録メンバー制)

東京本部 (いずれもオンライン開催予定)

- (1) 食品・流通包装懇話会 6月・9月・11月・1月
(2) 医薬品包装懇話会 5月・9月・11月・2月
(3) パッケージデザイン懇話会 5月・8月・11月・2月
(4) 輸送包装懇話会 7月・9月・11月・1月

関西支部

- (1) 生活者包装研究懇談会 年4回 (内 見学会1回)

<交流事業>

本年度は昨年に続き国内、海外ともに新型コロナウイルス感染症の影響下にあるため、当面の間はオンライン開催可能な会議会合を行いつつ、実地見学と対面会合は各地の事態収束状況に応じて受入先より実施応諾の得られたものから、漸次開催する。

1) 国内事業

(1) 見学会

- ①東京本部 関東圏企業・施設見学 年3回予定
②関西支部 関西圏 年2回予定
③中部支部 東海地方及び隣接地域 9月・3月(2022年度包装研究懇話会)
④西日本支部 九州及び西中国地方 年2回予定
⑤北海道支部 北海道内企業 10月
⑥東北支部 東北地方企業 2月

2) 海外交流事業 (公益目的事業 1) 東京本部

(1) アジア包装連盟 (APF) との連携

- ①APF戦略会議 オンライン開催 4月
②理事会、総会、アジア包装会議、アジアスター表彰式他 10月
(フィリピン・マニラで開催予定)

(2) 世界包装機構 (W P O) との連携

① W P O 理事会および併催される関連行事への参加

- ・ 前期： 5月上旬 イタリア、ミラノ
理事会、ワールドスター2022表彰式、ワーキンググループ等
- ・ 後期：10月12日(水)～14日(金)に開催される当協会主催の TOKYO
PACK 2022 併催にて、W P O の各イベントを開催予定
開催内容：理事会、コンフェレンス、セミナー等

② W P O 主催コンテストであるワールドスター関連行事への参加

- ・ ワールドスター2022表彰式(2022年5月)
- ・ ワールドスター2023オンライン審査(12月頃)

(3) 国際包装研究機関連絡会 (I A P R I) との連携 (いずれも Web 開催)

- 第30回 I A P R I メンバー会議 オンライン開催 6月
(第23回 I A P R I 世界包装会議 2022年6月 タイ・バンコク)

(4) 海外からの来日包装関係者の受入れ

(5) 海外への講師および包装専門家の派遣

- タイ・パッケージングセンターと連携した緩衝包装設計講座の開催
(COVID-19により開催時期調整中)

<普及啓発事業> 東京本部

本事業の中心となる日本パッケージングコンテストは、経済産業省、日本商工会議所、主婦連合会等の後援のもとに毎年開催されている。一般に対してもホームページからの募集を行っており参加が可能である。本年度も大学、公的機関及び消費者団体の方々に構成された審査員によって選ばれる入賞製品をグッドパッケージとして(最高賞は経済産業大臣賞)「TOKYO PACK 2022」の会場において一般公開する。本年度もこれまでと同様の内容で開催し、選ばれたパッケージはすべて選定理由と写真付きで広報される他、英文で全世界に広報する。

木下賞は、授与された包装製品がその年の最高技術水準にあることもあり、最近では、これらの包装には生活の向上という意味から消費者が大変関心を示している。本年度も審査員は官学及び民間からの有識者で構成され、応募はホームページを通して一般にも公開されるので誰でも無料で応募できるが、審査基準は大変高くまた厳しいものとなっている。受賞作品は月刊機関誌「包装技術」に特集で掲載されるほか、TOKYO PACK 2022で一般公開する。

1) 第46回木下賞 審査選考：4月予定 表彰式：6月(総会時)予定

2) 2022日本パッケージングコンテスト 審査：6月 表彰式：8月

- 3) 2022グッドパッケージング展、木下賞受賞作品展 10月
(TOKYO PACK 2022 会場内)

2. 展示会事業 (公益目的事業 2) 東京本部

1) TOKYO PACK 2022 (2022 東京国際包装展)の開催

今年度は隔年で開催する TOKYO PACK (東京国際包装展) の開催年である。本展は包装技術の更なる普及、振興、そして啓発をはかるとともに、商談や交流及び包装の最新情報発信の場として社会・経済の発展に資することを目的としている。今回のメインテーマは、「新時代パッケージここに集う！ - 未来のために機能進化と使命 -」。

メインテーマに沿った展示企画やセミナーなどの併催行事を進めていく。また、新型コロナウイルスの影響が更に長引くことも予想されるが、感染防止対策を講じながら、本年10月の対面での開催に向け準備を進めていく。

名 称：TOKYO PACK 2022 - 2022 東京国際包装展

Tokyo International Packaging Exhibition 2022

テーマ：新時代パッケージ ここに集う！ - 未来のために機能進化と使命 -

会 期：2022年10月12日(水)～10月14日(金) 3日間 10:00～17:00

会 場：東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東1～3ホール及び東6ホール (4館)

後 援：経済産業省 他8団体 (申請予定)

協 賛：包装関連団体 100 団体

出展内容：包装資材・容器 包装機械 印刷・包材加工機械 食品・医薬品・クリーン関連機材、検査・計測・環境関連機材 包装デザイン・サービス 次世代テクノロジー、包装・物流ソリューション 海外出展

開催規模：360社・団体 1,560小間

来場動員：来場登録者数：36,000人 総来場者数：100,000人

併催行事：2022グッドパッケージング展、2022木下賞受賞作品展、

出展社による最新包装技術セミナー、PACKAGE DESIGN PAVILION 2022

出展募集期間：2021年9月21日(火)～2022年5月9日(月)

2) 暮らしの包装商品展 2023

本年度は隔年で開催している暮らしの包装商品展の開催準備年である。本展は国民生活の中における包装の役割や最新の技術動向、各企業での取り組み、そして循環型社会の構築に向けて、消費者と包装関係者が共に集い、より良い包装について考える場であるのが特長である。今回も消費者の方に包装が果たす役割や重要性、そして身近な製品からみる包装の知られざる機能や秘密について、楽しく学んでいただけるよう準備を進めていく。

- 3) アジア・ヨーロッパ主要各国の国際包装展への TOKYO PACK PR ブース参加
各国の今後の開催状況などを鑑み検討する。

3. 調査研究事業（公益目的事業 3） 東京本部

現在、日本は、ISO/TC122(包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当協会は、包装分野の国内審議団体の他に、ISO規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与している。ISOにおける日本からの提案である、「『省エネルギー等国際標準開発』テーマ名：適正包装に関する国際標準化」事業は令和3年度で終了し、新規開発ISO/TR18607「ISO 18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック、改正ISO21898「非危険物用フレキシブルコンテナ」及び改正ISO15750-3「鋼製ドラム規格」の開発を進めて来た。このうち、ISO15750-3「鋼製ドラム規格」の開発が終了し、令和3年度内に規格発行の見込みである。令和4年度からは新たな事業年度（事業年度は3年間）として、ISO/TR18607「ISO 18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック、改正ISO21898「非危険物用フレキシブルコンテナ」の他、新たな開発事業を計画している。これら開発事業以外にも国際幹事国としてISO/TC122(包装)における様々な規格開発の支援を行う。一方、「包装のアクセシブルデザイン」は、日本から提案した4つの国際規格及びJIS規格の開発は終了し、「包装のアクセシブルデザイン」の個別規格として、JIS新規テーマ2件の規格化の活動を継続実施する。

また、包装は国民の日常生活に深く係っており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度もJIS規格の見直し作業も精力的に進める。

日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和38年の創立以来欠かさずことなく継続しており、本年度も2021年の統計を刊行する。これは、当会ホームページで紹介される。

1) ISO/TC122(包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動

- (1) 第25回ISO/TC122総会（開催時期：2022年6月予定、リモートでオンライン開催を予定）
- (2) 各WG（規格開発作業グループ）の国際会議への参加

2) ISO/TC122(包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動

- (1) 包装全般の国際規格に関する調査研究
- (2) 「国際標準開発」に対する調査研究
 - ①ISO/TR18607：「ISO18600規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」の国際標準の開発（日本新規提案）

- ② ISO21898 : 「非危険物用フレキシブルコンテナ」の国際標準の開発（日本改正提案）
- ③ ISO 4924 : エコデザインの原則－宅配便包装に関する要求事項及びガイドラインの開発（海外新規提案）
- ④ ISO 23416 : 「温度制御が必要な医薬品包装」の国際標準の開発（海外新規提案）
- ⑤ ISO 23417 : 「非滅菌医療機器包装適正物流」の国際標準の開発（海外新規提案）
- (3) 「包装のアクセシブルデザイン」に関する国際規格化の推進
 - ① ISO 11156（一般要求事項）、ISO 17480（開封性）、ISO 19809（情報と表示）、ISO 22015（取扱いと操作）の規格整備の調査及び新規提案への準備
- 3) J I S 制定・改正に関する調査研究
 - (1) 包装に関する J I S の原案作成事業の実施
 - ① 「アクセシブルデザイン 集合包装用段ボール箱の個数・重量の情報と表示（仮称）」の制定
 - ② 「アクセシブルデザイン 詰替え容器の操作性に関するアクセシブルデザイン（仮称）」の制定
 - ③ JIS Z 0200「包装貨物－性能試験方法一般通則」の改正
 - (2) 5年経過した J I S の定期見直し

上記標準化開発、調査研究は、政府関連機関からの委託事業又は日本規格協会の公募事業である。
- 4) 2021年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究
- 5) 国際連合工業開発機関（UNIDO）の依頼による、アフリカ諸国のプラスチックごみ問題解決に資する我が国の包装技術調査及び事例集作成事業
- 6) 包装教育に関する研究・調査

4. 出版関連事業（収益事業） 東京本部

月刊誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行われており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引続き一層の内容の充実を図りながら月刊誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

また、包装技術便覧を1995年以来の全面改訂版（第5版）として2019年2月に発刊したことを受け、今後も、包装産業界の人材教育、研究開発の一助として広報並びに

販売を行っていく。

- 1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊 (毎月1日発行)
- 2) 包装技術便覧(2019年2月発刊)の販売
- 3) 「Q&A容器包装規制基準の手引き」誌の編纂
- 4) 「包装用語集(仮称)」単行本の発刊準備(2022年秋発刊予定)

第2. 諸 会 議

- 1) 理事会 5月19日(木)、6月7日(火)、11月、3月 JPI会議室・如水会館
- 2) 常務理事会 3回開催 JPI会議室・如水会館
- 3) 全国支部連絡会 5月・11月 JPI会議室・ニューオータニイン札幌
- 4) 本部・支部諸会議 本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催
 - ①東京本部 (研修教育) 包装専士講座研修委員会、包装管理士講座研修委員会、WEBフォーラム委員会、包装懇話会幹事会、各種セミナー企画委員会、他
 - (展示会) 東京国際包装展実行委員会
 - (調査研究) ISO/TC122委員会、JIS委員会、包装統計委員会、他
 - (出版) 月刊「包装技術」編集委員会
 - ②関西支部 役員会 5月25日(水)、運営委員会(年2回)
生活者包装研究懇談会実行委員会(年3回)
 - ③中部支部 役員会 5月26日(木)、運営委員会(年2回/9月・3月)
研究例会テーマ検討作業部会 2月
 - ④西日本支部 運営委員会 8月・2月
 - ⑤北海道支部 運営委員会 5月・10月
 - ⑥東北支部 運営委員会 5月・10月・2月

第3. 行事・その他の活動

- 1) 行事
 - (1) 第11回定時総会 6月7日(火) 如水会館
 - (2) 新年会

東京本部	2023年包装界合同新年会	1月12日(木)	ホテル椿山荘東京
関西支部	2023年新春会員交流会/講演会	1月17日(火)	大阪倶楽部
中部支部	2023年新年賀詞交歓会	1月19日(木)	名古屋マリオットアソシアホテル
北海道支部	2023年新春賀詞交歓会/新春研究会	1月	
東北支部	2023年新年名刺交換会/新春講演会	1月	江陽グランドホテル
- 2) 会員交流会・支部特別講演会

関西支部 総会	5月25日(水)	中部支部	6月23日(木)
西日本支部	8月	北海道支部 総会	6月、IPP合同親睦会 7月

東北支部 新包装管理士を囲む会 11月

3) その他の活動

(1) Webサイトによる最新情報の提供 ホームページ 定期更新12回、逐次情報発信

(2) Eメールによる協会活動内容の国内配信 J P I メールマガジン 12回

(3) J P I 関連団体との連絡提携

日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、
技術士包装物流会、日本包装学会、日本MH協会 他

(4) 行政機関要請への協力と連携、研究機関、消費者団体、市民団体等との連携

経済産業省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、消費者庁、東京都、
横浜市、福岡県循環推進課

(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、
あいち産業科学技術総合センター 他

(5) その他

要請内容について随時判断